



2026年1月20日

各 位

会社名 株式会社エス・サイエンス
(コード番号: 5721、東証スタンダード)
代表者名 代表取締役社長 久永 賢剛
問合せ先 経営企画室 IR部
(<https://s-science.jp/contact/>)

事業計画（中期経営計画）に関するお知らせ

当社は、2026年1月13日付「事業計画（中期経営計画）の公表日確定に関するお知らせ」にて開示のとおり、公表日を2026年1月20日としておりましたが、本日取締役会において、当該事業計画（中期経営計画）の策定について決議いたしましたので、添付のとおりお知らせいたします。

以上



株式会社 エス・サイエンス



中期事業計画 2026-2029





エグゼクティブサマリー



エグゼクティブサマリー

エス・サイエンスは、BTCを中心とした企業価値の最大化を目指す
デジタル・トレジャリー・カンパニーです。

本計画における損益計算書の計画値は、BTCトレジャリー事業、トレジャリーアドバイザリー事業、蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業（グリッド事業）という複数の収益エンジンが段階的に立ち上がる構造を前提として設計されています。その成長は以下の3事業がそれぞれ異なる役割を担うことで実現されます。

- ・ BTC運用益 : 比較的高い収益性を期待できるトレジャリー運用の基盤収益
- ・ アドバイザリー報酬他 : デジタルアセット関連企業等への投資・助言を通じて創出される成果報酬型収益
(投資・資本政策・事業成長支援等)
- ・ グリッド事業収入 : 実体事業としての安定的・継続的な事業収益

当社は、BTCトレジャリー事業を企業価値の中核とし、トレジャリーアドバイザリー事業を成長加速装置と位置付けています。

また、蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業については、早期の事業化を前提として準備を進めており、当社の中長期的な安定収益源として位置付けています。

本事業計画の前提条件

- ・本事業計画（中期事業計画 2026-2029）は、以下の前提条件に基づき策定しています。
- ・当期は、トレジャリー事業および関連事業の基盤構築・体制整備フェーズに位置付けしており、当期業績は売上高998百万円、営業損失370百万円となる見込みです。
- ・本計画における数値計画および成長シナリオは、次期以降における事業の本格展開および収益化フェーズを前提として策定しています。
- ・BTCを含むデジタル資産の運用については事業継続および資金繰りに影響を与えない範囲で実施することを前提としています。
- ・暗号資産の評価方法、収益認識および会計処理については、関連法令および監査法人との協議を踏まえた適切な処理を前提としています。
- ・市場環境、暗号資産価格および外部環境については、特定の短期的な変動を前提とせず、一定の想定に基づいています。

エグゼクティブサマリー

(単位：百万円)

科目	2027年3月期 (計画値)		2028年3月期 (計画値)		2029年3月期 (計画値)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上	6, 553	100. 00%	12, 151	100. 00%	22, 456	100. 00%
売上原価	506	7. 72%	587	4. 83%	662	2. 95%
売上総利益	6, 047	92. 28%	11, 564	95. 17%	21, 794	97. 05%
販売費及び一般管理費	1, 133	17. 29%	1, 829	15. 05%	2, 644	11. 77%
営業利益	4, 914	74. 99%	9, 734	80. 11%	19, 150	85. 28%
支払利息	531	8. 10%	984	8. 10%	2, 176	9. 69%
当期利益	4, 383	66. 88%	8, 750	72. 01%	16, 974	75. 59%

2027年3月期から2029年3月期にかけて、

売上高は65億円から224億円へと拡大
営業利益は49億円から191億円に拡大

する計画です。

当社は売上拡大に伴うコスト増を最小限に抑え、利益が大幅に増大する「高効率な収益構造」を目指します。

本計画上、BTCの運用益および市場価格の変動に伴う収益は売上高に計上する前提としておりますが、正式な会計処理については監査法人と協議の上、決定する予定です。

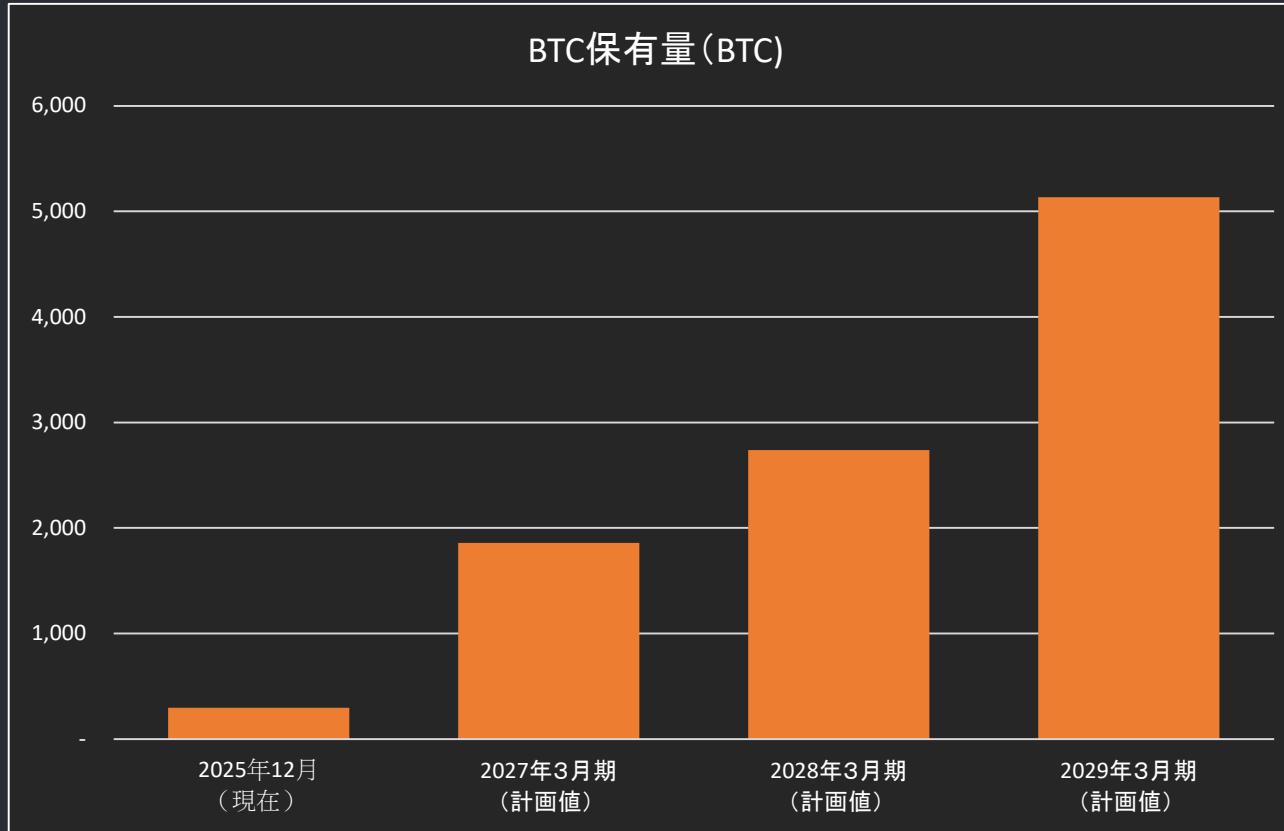
エグゼクティブサマリー

セグメント別売上及び営業利益の構成

							(単位：百万円)
	2027年3月期 (計画値)		2028年3月期 (計画値)		2029年3月期 (計画値)		
科目	金額	比率	金額	比率	金額	比率	
売上	6, 553	100. 00%	12, 151	100. 00%	22, 456	100. 00%	
BTC運用益	3, 508	53. 53%	6, 167	50. 76%	13, 822	61. 55%	
アドバイザリー売上	1, 700	25. 94%	3, 400	27. 98%	5, 200	23. 16%	
グリッド事業売上	805	12. 29%	2, 044	16. 82%	2, 894	12. 89%	
その他事業売上	540	8. 24%	540	4. 44%	540	2. 40%	
営業利益	4, 914	74. 99%	9, 734	80. 11%	19, 150	85. 28%	
BTCトレジャリー事業	3, 508	71. 38%	6, 167	63. 36%	13, 822	72. 18%	
トレジャリーアドバイザリー事業	1, 360	27. 68%	2, 720	27. 94%	4, 160	21. 72%	
グリッド事業	572	11. 64%	1, 417	14. 55%	1, 799	9. 40%	
その他事業及び本社	△ 526	-10. 70%	△ 570	-5. 85%	△ 631	-3. 30%	

BTC運用益を中心とした、アドバイザリー売上およびグリッド事業売上の拡大により収益基盤の安定化と持続的な成長を見込んでおります。

エグゼクティブサマリー



項目	2025年12月 (現在)	2027年3月期 (計画値)	2028年3月期 (計画値)	2029年3月期 (計画値)
BTC保有量 (BTC)	296	1,858	2,737	5,132
BTC評価額 (百万円)	4,093	30,936	52,875	115,109
日本企業ビットコイン保有量ランキング	6位	5位	2位	2位

2029年までに**5,000BTC**超の保有体制を構築し
日本企業における**トップクラス**のBTCトレジャリーを戦略的に目指します。



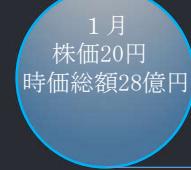
エス・サイエンスの 変革の軌跡



エス・サイエンスの変革の軌跡

(第1フェーズ：クリプトアセット事業立ち上げ)

時価総額が28億円から463億円へ



2月

主要株主KAYLEO社
の参画
暗号資産事業検討開始

4月

三崎優太氏参画
クリプトアセット
事業開発担当室長就任

6月

・第106回定時株主総会
にて定款変更の承認
・廣瀬氏＆関氏の取締役就任

1月

代表取締役の異動
FA体制＆経営体制刷新

3月

新たな事業
(暗号資産投資事業) の開始

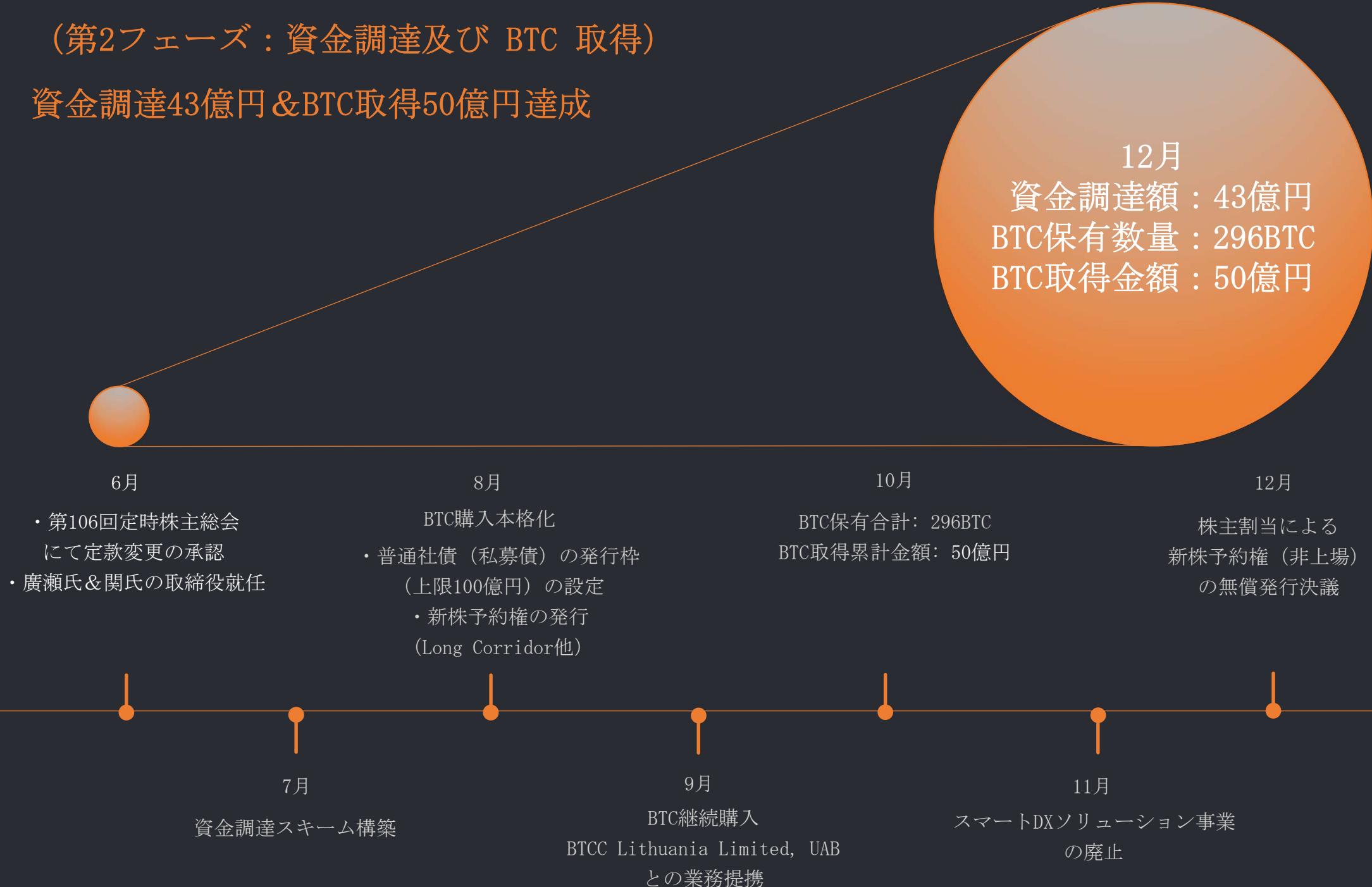
5月

暗号資産（ビットコイン）の
購入枠の設定（5億円）

エス・サイエンスの変革の軌跡

(第2フェーズ：資金調達及び BTC 取得)

資金調達43億円 & BTC取得50億円達成



DAT企業として新たなフェーズへ

第1フェーズ

クリプトアセット事業立ち上げ

体制構築、ガバナンス確立
資金調達体制の整備を完了

第2フェーズ

資金調達及び BTC 取得

資金調達を実行（43億円）
50億円規模のビットコイン保有を実現

第3フェーズ

次なる成長フェーズへ

描いてきた戦略を実行し
結果として示すフェーズに突入

次なる成長フェーズでは

トレジャリー事業の拡大に加え、トレジャリーアドバイザー事業と蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業が新たな成長エンジンとして本格化し一部は具体案件化しています。

当社はDAT企業として

金融と実体事業を融合した
次の成長フェーズに入ります



株主割当増資の目的





資本政策の転換点 -MSワラントから株主割当-

これまで (MSワラント)

- ・迅速な資金調達の実現
- ・柔軟な資本政策の実行
- ・市場売却による株価への下押し圧力
- ・既存株主への負担増加



今後 (株主割当)

- ・DAT企業としての基盤整備が完了
- ・成長フェーズは「拡大」から「価値創造」へ
- ・その結果、株主価値と整合的な資本政策が可能に
- ・株主価値と整合的な「株主割当方式」へ転換

MSワラントは成長初期に有効な手段であった一方、現在の当社の成長段階においては、株主価値と整合した資本政策への転換が必要と判断しました。



株主割当の3つの特徴

1

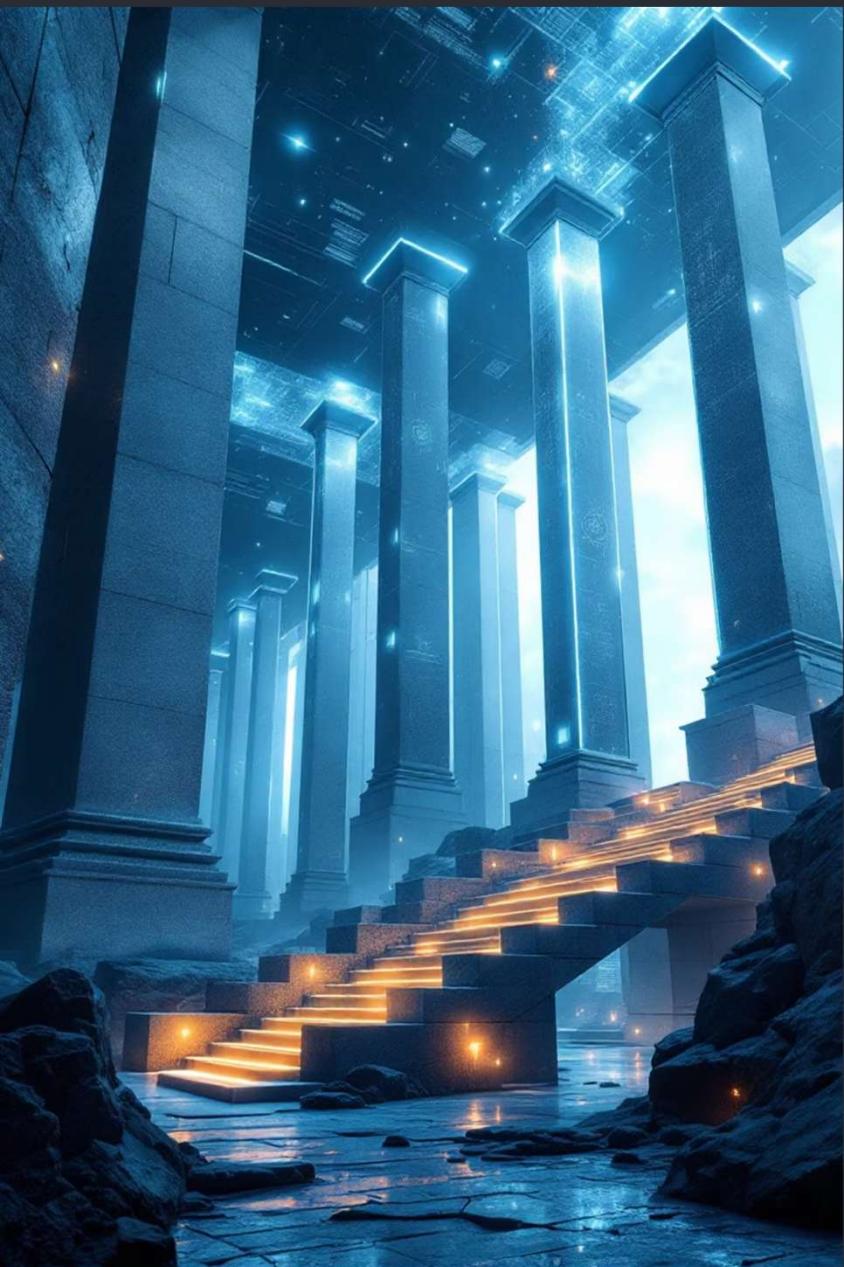
公平な参加機会
既存株主の皆さまに対し持株比率に応じた
公平な新株引受の機会を提供致します

2

株主による主体的判断
行使の可否を株主自身が判断できる設計により
投資家の意思を尊重します

3

市場圧力の回避
市場での売却圧力を伴いにくく
株価への影響に配慮した資本調達を実現します



株主割当がもたらす価値



自己資本の厚み

自己資本比率の向上により、市場変動リスクへの耐性を高め、安定した事業運営を可能にします



投資判断の機動性

十分な資本余力により、成長機会を迅速に捉え、競争優位性の確立を可能にします



中長期価値創造

持続可能な成長基盤の構築により、中長期的な株主価値の最大化を実現します

当社は、株主価値との整合性を最優先に、資本政策についてはその都度慎重に判断してまいります。株主割当方式はその一つの選択肢として位置付けています。

株主に支えられ一緒に成長を目指す





3つの事業領域による
持続的成長モデル



3本の柱で構築する事業ポートフォリオ

エス・サイエンスは、デジタル資産を中心としたながら、知見の提供と実体インフラへの展開を通じて、企業価値の持続的な向上を目指します。各事業領域が相互に連携し、中長期的な成長基盤を形成していきます。



BTCトレジャリー事業

暗号資産を戦略的資産として位置づけ、財務基盤を強化します。

- ・中長期的な価値保存
- ・戦略的バランスシート運用
- ・インフレリスク対応



トレジャリー アドバイザリー事業

企業への暗号資産に関するアドバイザリー及び投資を実行致します。

- ・企業向けアドバイザリー
- ・戦略的投資・資本参加
- ・IR支援



蓄電池・マイニング・ AIデータセンター事業

デジタル社会を支える実体インフラへ戦略的に関与します。

- ・電力安定供給
- ・余剰電力活用
- ・AI向けインフラ



トレジャリー事業

デジタル資産を中心とした"企業価値の基盤"



トレジャリー戦略の基本方針

デジタル資産を短期的な売買益を目的とせず、企業としての信用力・持続性・将来の投資余力を高めるための基礎インフラとして捉えています。市場環境やマクロ経済の変化に耐えうる、堅牢な財務基盤の構築を進めてまいります。

従来型財務構造からの転換



従来の財務

現預金中心のバランスシート
インフレリスクへの脆弱性



デジタル資産活用

暗号資産の戦略的保有
価値保存機能の強化



企業価値向上

信用力・投資余力・
持続的成長力の獲得

BTCの当社の運用方針

-高度なトレジャリー運用による企業価値創出-

基本方針

- ・BTCを単なる価値保存資産ではなく、戦略的トレジャリー資産として活用
- ・短期的な価格投機を目的とせず、中長期的な企業価値の最大化を志向

主な運用手法

- ・レンディング等を通じた収益機会の創出
- ・デリバティブ取引等を活用した運用の高度化
(価格変動リスクの調整・運用効率の最適化)
- ・単一手法に依存しない複数手法を組み合わせたポートフォリオ運用
- ・BTCを活用した資本・事業連動型の出資
(投資・事業連携を通じた企業価値向上を目的)

BTCトレジャリー運用を、運用・投資・アドバイザリーと連動する中核機能として位置付け、企業価値の持続的な成長に資する運用を推進します。

トレジャリー事業を担う責任者

エス・サイエンスのトレジャリー事業は、金融および暗号資産分野で豊富な実務経験を有する2名によるトレジャリー運営戦略設計・意思決定(廣瀬)と管理・統制・牽制(関)という明確な役割分担のもと、相互牽制が機能する体制を構築。暗号資産を保有・運用する上で不可欠な透明性・規律・実行力を備えたトレジャリー運営を実現しています。



廣瀬 卓也

取締役／クリプトアセット事業統括担当

投資銀行・資本市場での豊富な経験と暗号資産企業でのCFO経験を活かし、財務戦略・資産運用・全体設計を統括。トレジャリー戦略を設計・推進する責任者として、攻めの財務戦略を主導します。



関 孝徳

取締役／クリプトアセット事業管理担当

bitFlyer黎明期からの暗号資産実務経験と公認不正検査士(CFE)資格を保有。会計・監査・内部統制・リスク管理の専門性を活かし、トレジャリー事業のガバナンスと信頼性を担保する守りの責任者です。

BTC購入履歴

ビットコインのこれまでの購入履歴をまとめています。

No.	取引日	取引内容	銘柄	数量	取引単価	取引金額
1	2025年8月28日	購入	BTC	30.7408546	16,265,000.00	500,000,000
2	2025年9月9日	購入	BTC	151.24016939	16,530,000.00	2,500,000,000
3	2025年10月2日	購入	BTC	114.25959781	17,504,000.00	2,000,000,000
合計				296.2406218	16,878,171.43	5,000,000,000

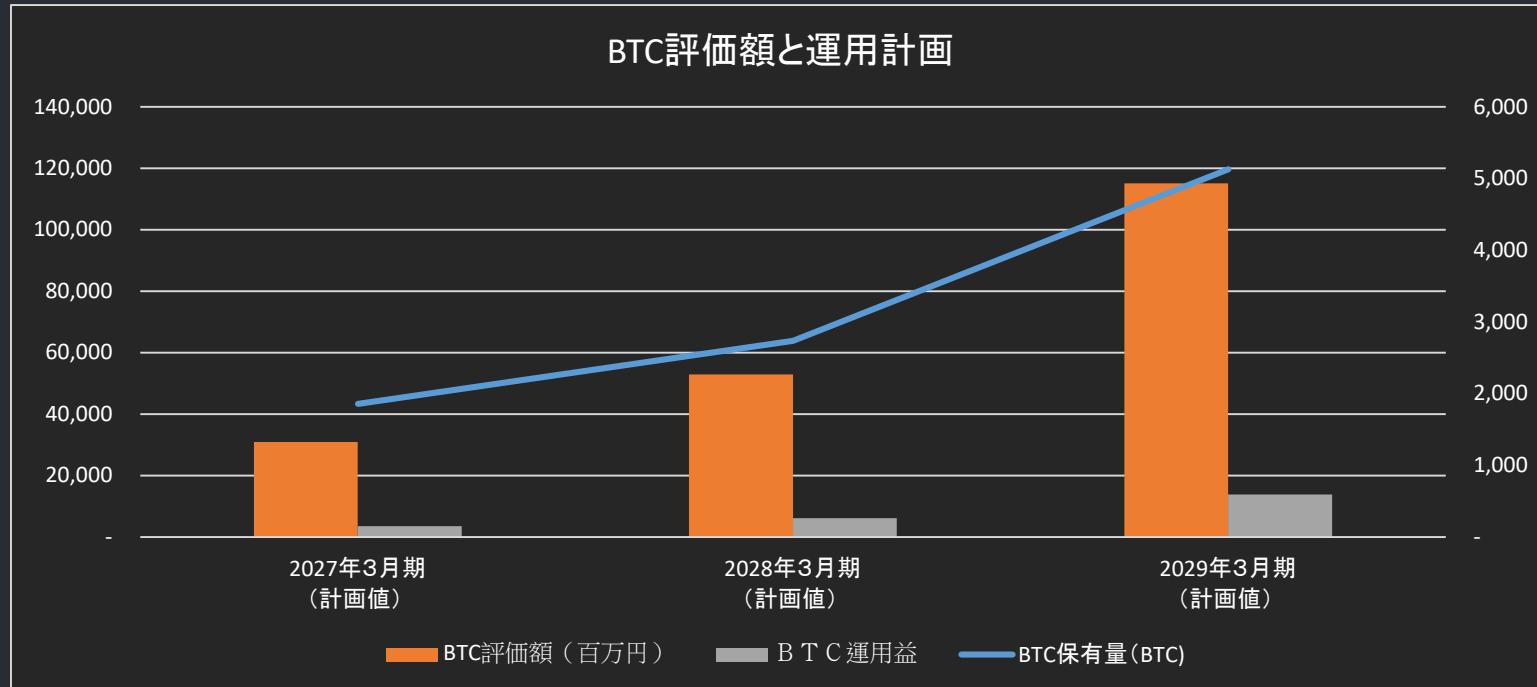
- ・ 総購入数量 : 296.2406218 BTC
- ・ 平均取得単価 : 16,878,171円
- ・ 累計投資額 : 50億円

戦略的なタイミングでBTCを取得

平均取得単価を最適化しながら、着実にポートフォリオを構築

BTC運用計画

ビットコインの今後の運用と保有計画は以下になります。



項目	2027年3月期 (計画値)	2028年3月期 (計画値)	2029年3月期 (計画値)
BTC保有量 (BTC)	1,858	2,737	5,132
BTC評価額 (百万円)	30,936	52,875	115,109
BTC運用益	3,508	6,167	13,822
期末BTC想定価格 (千円)	18,311 ～ 14,981	21,254 ～ 17,390	24,671 ～ 20,185

当社は、デジタル資産を投機の対象ではなく、企業価値を支える財務基盤の一部として、規律と透明性をもって運用してまいります。



トレジャリードバイザリー事業

直接投資 × IR支援を中心とするトレジャリードバイザリー事業

トレジャリーアドバイザリー事業構成図



BTCを活用した増資・アドバイザリーを行うことで
戦略設計・投資・発信を一体で実行し
企業価値と株主価値の中長期的な向上を実現していきます。

企業価値向上に向けた実行施策

構想を設計で終わらせず
投資と市場との対話を通じて実行します



トレジャリー戦略
実行支援業務

投資業務
(インベストメントバンキング事業)

IR支援業務
(インフルエンサー・専門家活用型)

企業価値向上に向けた実行施策 ①



トレジャリー戦略実行支援業務

【戦略設計・意思決定を担う中枢機能】

暗号資産を戦略的資産として位置づけ財務基盤を強化します。

- ・仮想通貨・デジタルアセット導入の目的整理
(財務防衛、成長投資、市場評価、株主構成等)
- ・企業の財務状況・事業戦略を踏まえたトレジャリー戦略全体の設計
- ・会計・税務・ガバナンス・開示の論点整理と制度設計

※ BTCC等の海外取引インフラ事業者との連携を活用

企業価値向上に向けた実行施策 ②



投資事業（インベストメントバンキング事業）

【直接投資による戦略実行のコミット】

トレジャリー戦略実行支援業務で培った企業との接点を活かし
直接投資によるバリューアップを目的とします

- ・ B T C企業としての知見を活用した上場会社向け
エクイティ投資
- ・ 成長戦略・新規事業に対する資本面からの支援
- ・ 中長期的な企業価値向上を前提とした戦略的関与
- ・ 投資後も戦略・IRと連動した継続的な関与を行う

企業価値向上に向けた実行施策 ③



IR支援業務（インフルエンサー・専門家活用型）

【戦略的 IR 支援業務】

インフルエンサー・専門家活用型

- ・インフルエンサーの影響力を活用し
SNS等を通じて個人投資家層への認知拡大を図る
- ・インフルエンサーと専門家が登壇するIRイベントを通じ市場理解を促進
- ・投資実行と整合した一貫性のあるIRストーリーを構築する

トレジャリーアドバイザリー事業を担う責任者



能勢 元

Gen Nose / 公認会計士
アドバイザー



三崎 優太

Yuta Misaki
クリプトアセット
事業室長

トレジャリーアドバイザリー事業において、ファイナンス・会計・ガバナンスの観点から事業の信頼性と実行力を支える中核人材です。エス・サイエンスにはファイナンシャル・アドバイザー（FA）として参画しており、暗号資産を含む先進的な財務戦略や新規ビジネスについて、制度・実務・開示の各側面を横断的に捉えながら、ファイナンスストラクチャーの設計から実行までを見据えた支援を行っています。

単なる助言にとどまらず、企業の成長フェーズやリスク特性を踏まえ、構想段階の戦略を企業が「実行できる形」へと落とし込む役割を担っています。

トレジャリーアドバイザリー事業において、構想力・発信力・ネットワークを担う中核人材です。起業家・投資家としての実体験に基づく現実的な視点と、高い社会的発信力を活かし、企業のデジタル資産活用を単なる施策ではなく、「経営判断」として前に進める役割を担っています。また、同氏が有する幅広い経営者・投資家・事業家とのネットワークは、トレジャリー戦略の助言にとどまらず、新たな事業機会の創出、資本・事業連携、成長分野への展開といった多様な事業展開の可能性を広げる重要な要素となっています。

専門性と発信力の融合

トレジャリーアドバイザリー事業は、2名の中核人材の補完関係により推進します。

能勢 元（公認会計士）

- ・最適なファイナンスストラクチャーを設計・構築し事業戦略と整合した資金調達・資本政策を実行レベルで構築
- ・投資家・規制当局を意識した開示方針の整理・市場とのコミュニケーション戦略を設計
- ・財務戦略と整合したガバナンス設計
取締役会・監査対応を見据えた内部統制の構築を支援

三崎 優太（起業家・インフルエンサー）

- ・起業家・投資家としての実体験に基づき経営者視点での意思決定を支援するとともにトレジャリー戦略におけるデジタル資産活用の構想整理を提供
- ・投資家・社会とのコミュニケーション視点を提供し幅広いネットワークを活かした事業連携や新規展開を支援
- ・インフルエンサーとしての発信力を活かしSNS等を通じて個人投資家に対するIRコミュニケーションを支援

専門性に基づく戦略設計 発信力を活かしたIR支援

を融合し戦略の実行と市場理解を同時に進め
企業価値と株主価値の中長期的な向上を目指します



トレジャリーアドバイザー事業 P/L 詳細

トレジャリーアドバイザー事業利益推移

科目	2027年3月期 (計画値)		2028年3月期 (計画値)		2029年3月期 (計画値)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上						
アドバイザリー売上	1,700	100.00%	3,400	100.00%	5,200	100.00%
アドバイザリー件数	6 件		12 件		18 件	
販売費及び一般管理費						
アドバイザリー販管費	340	20.00%	680	20.00%	1,040	20.00%
営業利益	1,360	80.00%	2,720	80.00%	4,160	80.00%

2027年度売上17億円から2029年度**売上52億円**を目指す。



蓄電池・マイニング AIデータセンター事業

エネルギー・デジタルインフラ事業

蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業

事業ポートフォリオ（3本柱）



①蓄電池事業

- ・全事業の基盤インフラ
- ・マイニング・AIの変動負荷を吸収する調整装置
- ・系統用蓄電池を中心とした用地選定・系統接続・EPC管理運用
(需給調整・市場活用)

②マイニング事業（可変負荷ビジネス）

- ・電力価格・需給に応じてON/OFFできる“調整弁”
- ・成長戦略・新規事業に対する資本面からの支援
- ・再エネ・非FIT電力・余剰電力を活用したマイニング
- ・蓄電池と連動した夜間充電・価格高騰時停止・余剰時稼働

③AIデータセンター事業（安定負荷ビジネス）

- ・マイニングより安定した長期負荷
- ・将来的な主軸候補
- ・コンテナ型／モジュール型AIデータセンター
- ・地方立地（電力制約の少ない地域）
- ・蓄電池併設による瞬低対策電力ピークカットBCP対応



事業フェーズ設計（時間軸）

フェーズ 1（初期）

1

- ・蓄電池案件の具体化
- ・マイニング併設による実証
- ・AIデータセンターは検討・PoC段階

フェーズ 2（拡大）

2

- ・蓄電池拠点の横展開
- ・マイニングの最適化運用
- ・AIデータセンターの本格稼働開始

フェーズ 3（安定）

3

- ・AIデータセンターを主収益源に
- ・マイニングは調整機能へ
- ・蓄電池はストック型インフラに進化

当社は、蓄電池を中心とした電力インフラを基盤に、マイニングおよびAIデータセンターといったデジタル負荷事業を組み合わせることで、電力需給の最適化と事業収益の安定化を同時に実現するエネルギー・デジタルインフラ事業の構築を目指します。

蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業を担う責任者



三崎 優太
三崎未来ホールディングス 代表取締役

2026年1月、エス・サイエンスは三崎未来ホールディングス株式会社との間で、蓄電池事業を中心に、マイニングおよびAIデータセンター事業を含む業務提携契約を締結しました。



久永 賢剛
代表取締役

電力会社出身であり多くの電力関連業務に携わった経験を有しており、電力インフラやエネルギー事業の特性を踏まえた実務的な判断のもと、本事業の投資判断およびリスク管理を含む最終的な意思決定を担います。

三崎未来ホールディングスとの業務提携

2026年1月、エス・サイエンスは三崎未来ホールディングス株式会社との間で業務提携契約を締結しました。

本提携は、相手先代表取締役であり、当社クリプトアセット事業開発担当室長を務める三崎優太の知見・ネットワークを活用しながら、蓄電池事業等の具体化および早期事業化を目指すものです。

1 知見の活用
業界専門家のネットワーク活用

2 事業具体化
蓄電池事業の実行計画策定

3 早期事業化
スピード感を持った市場参入

各 位

会社名 株式会社エス・サイエンス
(コード番号: 5721、東証スタンダード)
代表者名 代表取締役社長 久永 賢剛
問合せ先 経営企画室 IR部
(<https://s-science.jp/contact/>)

三崎未来ホールディングス株式会社との業務提携契約締結に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、三崎未来ホールディングス株式会社（以下、「三崎 HD 社」という）との間で、蓄電池事業を中心とし、マイニング事業および AI データセンター事業に係る業務提携契約（以下「本契約」）を締結しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 本業務提携の目的及び理由

当社は、クリプトアセット事業および電力関連事業を中核とする成長戦略のもと、蓄電池、マイニング、AI データセンター事業等を含むエネルギー・デジタルインフラ分野への参入を見据え、着実に事業化に向けた準備を重ねております。

こうした中、当社は、当該分野に関するノウハウおよび設備供給ルートを有する三崎 HD 社との間で、事業の具体化および推進体制の構築を目的として、本業務提携契約を締結いたしました。

蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業 P/L詳細

蓄電池・マイニング・AIデータセンター事業利益推移

科目	2027年3月期 (計画値)		2028年3月期 (計画値)		2029年3月期 (計画値)	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上						
グリッド事業売上	805	100.00%	2,044	100.00%	2,894	100.00%
売上原価						
グリッド事業原価	47	5.85%	128	6.28%	203	7.02%
販売費及び一般管理費						
グリッド事業減価償却	140	17.38%	380	18.59%	720	24.88%
グリッド事業販管費	46	5.75%	119	5.80%	171	5.92%
営業利益	572	71.01%	1,417	69.32%	1,799	62.18%

2027年度売上8億円から2029年度**売上28億円**を目指す。
中長期的な成長を見据えつつ段階的な投資と運用により
安定した収益基盤の構築を目指す事業です。



その他事業及び 本社経費

金属事業

その他事業および本社経費詳細

その他事業及び本社経費等の推移

	2027年3月期 (計画値)		2028年3月期 (計画値)		2029年3月期 (計画値)	
科目	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上						
その他事業売上	540	100. 00%	540	100. 00%	540	100. 00%
売上原価						
その他事業原価	459	85. 00%	459	85. 00%	459	85. 00%
販売費及び一般管理費						
本社経費他	607	112. 33%	651	120. 50%	712	131. 93%
営業利益	△526	-65. 27%	△570	-27. 88%	△631	-21. 82%
支払利息	531	98. 35%	984	182. 25%	2, 176	402. 95%
当期利益	△1, 057	-131. 21%	△1, 554	-192. 95%	△2, 807	-348. 60%

その他事業は主に金属事業の売上になり、新規商材売上は含んでおりません
本社経費は中長期的な成長を見据えた金額となっております。

留意事項

本資料に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、当社が現在入手している情報による判断・評価・仮定に基づいております。

その判断・評価・仮定に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の状況変化等により実際に生じる結果が予測内容等とは実質的に異なる可能性があります。

当社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。

本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社により何らかの行動を勧誘するものではありません。

目的を問わず、本資料を無断で引用又は複製することを禁じます。